

フィールドレポーター 2024 年度第 2 回調査
「タンポポ調査」のご案内



キラキラした陽ざしが、春の近いことを感じさせてくれます。

今年は 2025 年。2010 年から 5 年ごとに行われている「タンポポ調査・西日本」の実施年に当たります。西日本の 17 府県が参加するタンポポ調査に協力する形で、フィールドレポーターでもタンポポを調べたいと思います。皆さんのお住いの近くにも、黄色や白色のタンポポがたくさん咲いていることでしょうか。色々なタンポポを見つけてみませんか。

滋賀県には 8 種（しゅ）のタンポポが生育しています。それらの種を見分けられれば観察が楽しくなると思いますが、初めは少し難しいかもしれません。調査資料の「タンポポの特徴と滋賀県の生育種」を参考にして、現地で見比べながら、見分けにチャレンジしてみてください。

前回（2020 年）の調査では、カンサイタンポポは県の南西地域に多く、セイタカタンポポは県の北東地域に多いことがわかりました。また、“自然豊かなところには在来種が残り、都市部には外来種が広がっている”と言われますが、滋賀県北部の都市的緑地や琵琶湖周辺の農地に、外来種が広がっていることが明らかになりました。

今回の調査は次の 2 つに焦点をあてて調べたいと思います。

1. タンポポの花期、特に咲き始めの時期が種（しゅ）によって、あるいは春の訪れが早い県南部と遅い県北部とで、違うだろうか。
2. シロバナタンポポは、前回の調査では、長浜市と米原市において確認地点の報告がなかった。すぐに見つかるほど密に咲いている地域と、探しても見つからない地域があるのだろうか。レポーターの皆さんからの情報により、新たな発見があることを期待しています。

タンポポの在来種と外来種の間に雑種が生じることが 1990 年に判明し、その後の研究で、雑種が日本各地に広がっていることが分かっています。在来種そっくりの姿をした雑種がある一方で、外来種そっくりの姿をした雑種もあるそうです。雑種の識別には遺伝子分析が必要ですが、滋賀県に生育する黄花在来種の 4 種のうちの 3 種は、花粉の大きさが均一かバラバラかを顕微鏡観察することで、雑種かどうかの識別ができます（花粉が均一であれば二倍体の純粋な在来種です）。

他の種についても、花やタネのサンプルは種の見分けに重要です。観察した株にタネができていない時は無くても構いませんが、花は必ず送ってください。よろしくお願いいたします。皆さんの調査票の記録とサンプルの花粉の状態などから種を判断し、その結果を後日お知らせいたします。

調査方法は別紙の「タンポポ調査の調べ方」に書いていますのでご覧ください。調査地点と調査株は自由に選んでいただいて結構です（どこでも、どれでも大丈夫）。興味のある方は、違う場所・違う環境の何箇所かを調べると、環境と生育種の関係が見えてきて面白いかも知れません。

調査期間は 2025 年 3 月 1 日～5 月 31 日です。

*「タンポポ調査・西日本 2020」の滋賀県の調査報告書を同封しています。ご覧ください。なお、普段、連絡等をメールで受けておられる方は、いつもの PDF ダウンロードでお受け取り下さい。

参考文献

前田雅子（2020）「タンポポ調査」結果報告。フィールドレポーターだより通巻 54 号。琵琶湖博物館。

森田竜義・芝池博幸（2012）雑種タンポポの研究の現在。森田竜義編著「帰化植物の自然史」北海道大学出版会。